



# 研究内容紹介

＜専門領域＞  
保健体育科教育学  
舞踊教育学

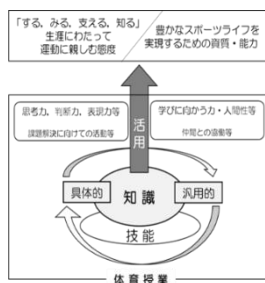


## 研究キーワード1

### 「知識」と「技能」を往還する体育授業の指導法の開発

体育分野の学習すべき「技能」に対応した「知識」は、体育授業の実践、保健体育科で獲得を目指す態度や資質・能力の根幹となります。それ故、「技能」と関連させた「知識」を明確にし、それらの「知識」を活用した授業実践モデルを構築することは、体育授業の充実や児童生徒の生涯スポーツに繋がる資質・能力の育成を目指す上で、大変重要です。

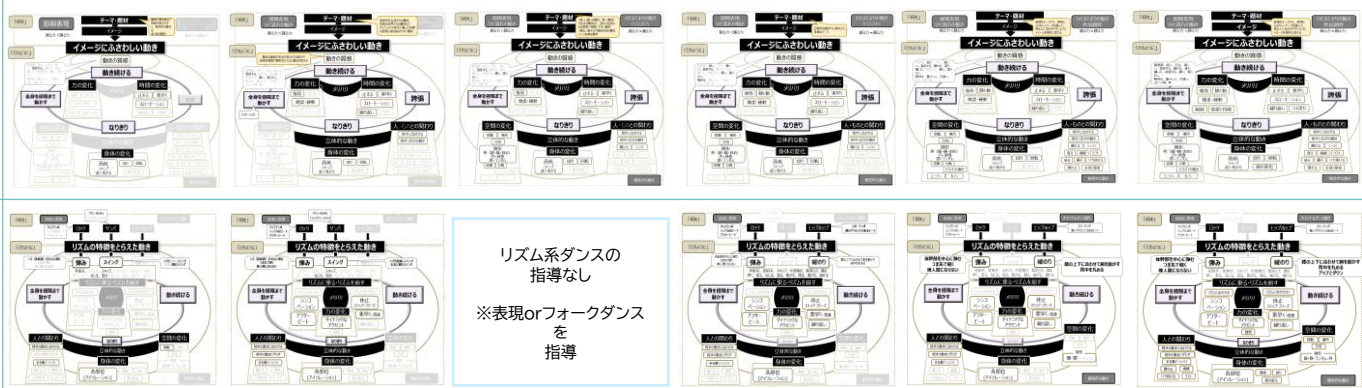
そこで、「知識」と「技能」との関連を重視し、「わかって」「できる」生徒を育成するための様々な教材を開発しています。ダンス領域では、表現系ダンスとリズム系ダンスについて、技能の評価観点をまとめた「技能評価観点構造図」を作成し、さらに、学習指導要領に基づいた発達段階ごとの図を完成させました。



小1・2年      小3・4年      小5・6年      中1・2年      中3・高1年      高2・3年

表現系ダンス

リズム系ダンス



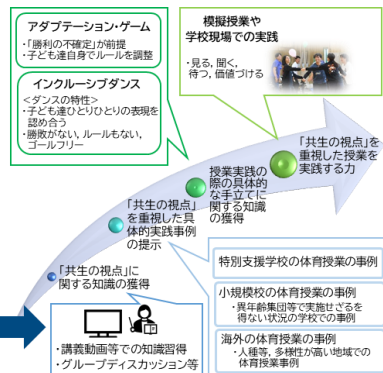
## 研究キーワード2

### 教員養成段階における「共生の視点」のを踏まえた授業実践力の育成

現行の学習指導要領では、「原則として男女共習で学習を行うこと」と明記されています。しかしながら、現場で指導する教師は、男女別習での授業経験が長く、今までに実践していない新しい授業形態に対する戸惑いから、自信を持って「共生の視点」を重視した授業実施に踏み込めない現状があります。一方、教員養成段階(大学)では、教員としての最小限必要な資質能力を学生に身に付けさせることが求められています。したがって、大学の授業を通して、教師を目指す学生には、「共生の視点」を重視した体育授業を実施できる力を身に付けさせることが必要不可欠です。

そこで、現在、「共生の視点」を重視した体育授業を実践できる教師を養成するための教育プログラムを開発しています。

- ① 多様な他者や価値観への気づき・受容・理解・尊重
  - ・競技スポーツ、大学の世界は、同質性の高い集団であることを自覚する
  - ・様々な価値観を知る機会を意図的に作る
  - ・年齢、国・地域、文化、社会的背景、障害、LGBTQ+を含む性別等
  - ・自分の「当たり前」を問い続ける力
  - ・子ども一人一人を「個」として意識する
  - ・「皆、同じ人間である」という意識づけ
- ② 競争以外の体育・スポーツの価値や意義の共有
  - ・体育の多様性「する・みる・支える・知る」
  - ・「する」の中にも「勝敗を競う」ものだけではなく、非競争型の共有感を築くものもある
  - ・体育・スポーツ教育を通して、何を指すのか、技能向上のみではない、学校体育のゴールは「競技スポーツ」ではなく「生涯スポーツ」であること
  - ・「共生」「参画」「協力」の繋がりを意識する
- ③ 民主的な対話を介してのルールや用具の工夫・調整
  - ・「勝利の不確定」を前提とするアダプテーション・ゲーム等
  - ・子ども達自身でルールを調整する力を育む
  - ・共に楽しむためには、何が必要か？



## 研究キーワード3

### 教員養成段階におけるICTを活用した運動観察力、授業構成力の育成

体育実技の領域・種目に関する「実践的指導力」の養成には、示範等に必要な教師自身の運動技能の向上のみならず、動きを観察し評価する力、すなわち運動観察力を育成することが重要です。

そこで、3年前から、「関連実技科目」の担当教員と連携し、それぞれの科目の教育内容を整理した上で、各種目における主要な技能を抜粋し、評価規準及び判定基準を作成しています。

さらに判定基準に沿った試技映像やそれぞれの技能を高めるための指導法について、学生を見本として撮影・編集し、映像コンテンツを作成してウェブサイト構築し、学内外へ発信しています。

今後は、映像コンテンツを校種別・発達段階別に発展させるとともに、自主学習が可能なコンテンツについても作成・充実させていきたいと考えています。

